

少彦名神社の薬祖講行事

少彦名神社の薬祖講行事

すくなひこなじんじゃのやくそこうぎょうじ

分野／部門

無形民俗文化財

保持団体

少彦名神社薬祖講

所在地

大阪府中央区道修町 2

紹介



くすりの町と称される道修町は、江戸時代から薬種商が集中したところで、近世中期に株仲間が組織されて以来、組合組織としての結合を保ちながら、地に根ざした産業が担われている。

少彦名神社は安永 9 年(1780)に組合の会所に勧請(かんじょう)され、以降信仰や経済活動の中心となっていた。

疾病除け(しっぺいよけ)の張子の虎で知られ、毎年 11 月 22・23 日に実施される神農祭(しんのうさい)はその例大祭であり、かつては株仲間の行事交代の場であり、現在は神農祭のお礼祭りとされる冬至祭とともに、薬祖講という約 400 社の薬業関係企業で構成される講によって維持・運営されている。

都市大阪ならではの問屋街に受け継がれる民俗行事である。